

## 視 察 概 要

### 現地視察

目 的：福島 12 市町村の将来像の検討のため、復興拠点予定地や、ふたば未来学園、イノベーション・コースト構想等の建設予定地を視察。

平成 26 年 12 月 23 日(火・祝)

訪問者：大西座長、家田座長代理、中村委員、松永委員、山名委員

視察先：

- 広野町立広野中学校、ふたば未来学園建設予定地
- 広野駅東側開発事業予定地
- 檜葉町南工業団地檜葉遠隔技術開発センター計画地
- 富岡駅周辺
- 大熊町大川原地区復興拠点予定地、福島給食センター予定地

平成 27 年 3 月 5 日(木)

訪問者：家田座長代理、山名委員

視察先：

- 飯舘村役場周辺
- 南相馬市役所周辺、復興工業団地予定地
- 小高駅西側市街地整備予定地
- 浪江町役場周辺
- 双葉駅前
- 中間貯蔵施設建設予定地
- 葛尾村役場周辺、復興交流館建設予定地
- 川俣町山木屋地区複合施設整備予定地

## 海外視察

平成 27 年 3 月 19 日(木)～22 日(日)

**目 的**：福島 12 市町村の将来像の検討のため、チェルノブイリからの避難住民のために新たに建設された計画都市であるスラブチッチ市等、チェルノブイリ周辺自治体を視察し、現地関係者と意見交換を行うことで、原発事故からの復興に係る先行事例を収集。

**訪問者**：家田座長代理、松永委員

**視察先**：

➤ **スラブチッチ市**

チェルノブイリ原発事故後、新たに建設した都市。原発従業員とその家族を中心として、原発周辺から避難した住民が居住。2000 年にチェルノブイリ原発の運転が終了したため一度は人口が減少したが、元の水準まで回復。原発に依存しない産業づくりのため、新産業の立ち上げや、ビジネスインキュベーターの設置による起業支援を実施。(スラブチッチ市長から聴取)

➤ **コロステン市**

8 世紀に建設された歴史ある都市。1900 年に鉄道が敷設。チェルノブイリ原発事故により住民の約半数が市外に避難。鉄道や花こう岩等の採掘等の産業により景気に左右されず安定した雇用があったことから、その後人口が増加し、現在は事故前の人口を超えている。鉄道のハブ機能を生かした工業団地の整備により、工場を誘致。(コロステン市長、及び市職員から聴取)

➤ **チェルノブイリ博物館**

➤ **被災者支援団体「ゼムリャキ」**



スラブチッチ市内の様子



スラブチッチ市長と視察団



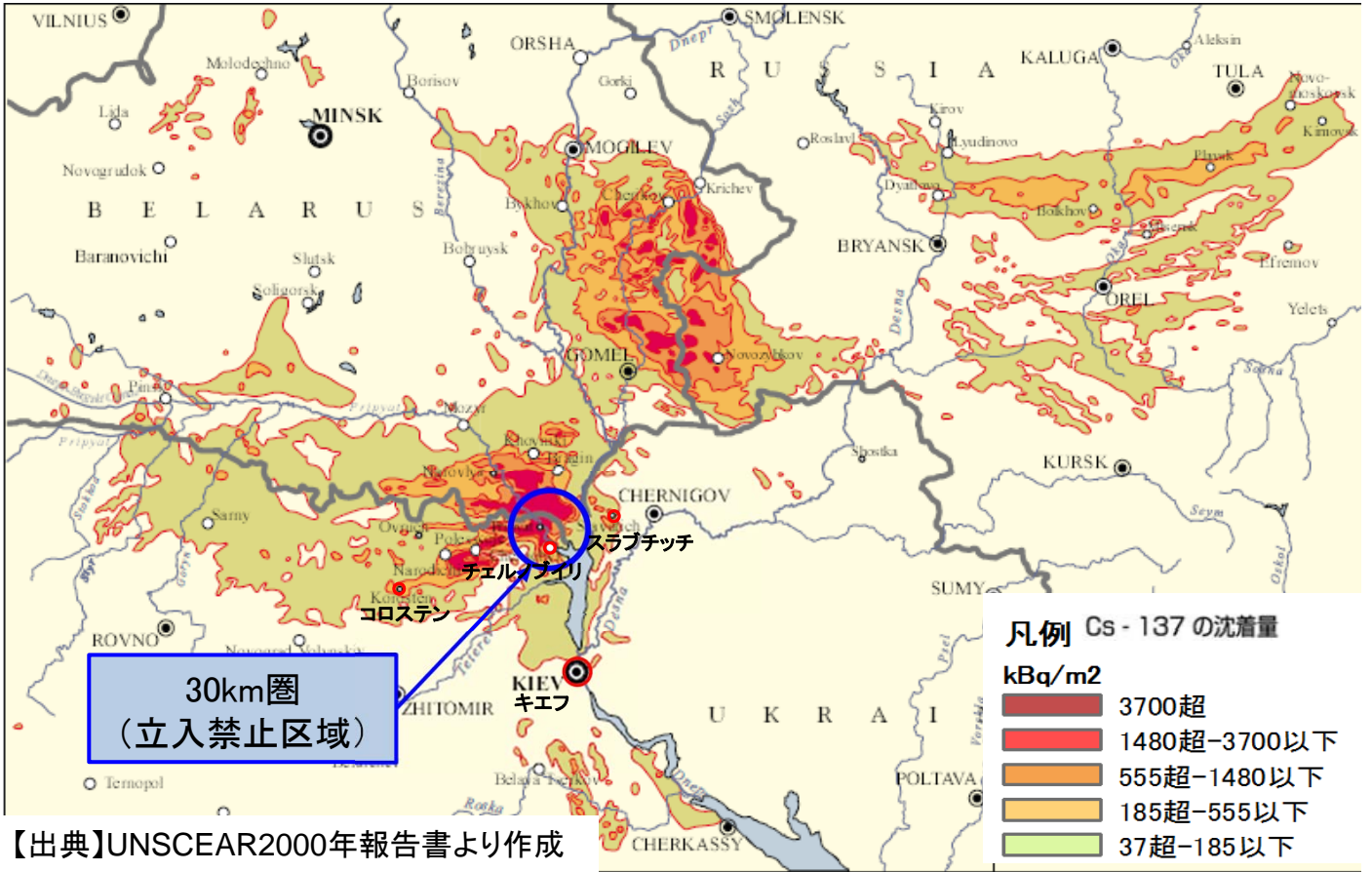
コロステン市内の様子 (市場)



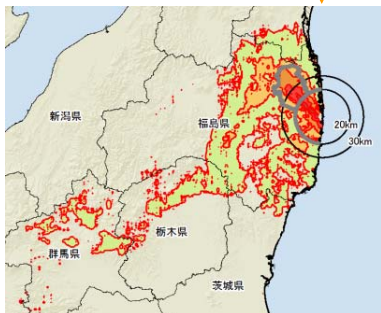
コロステン市長と視察団

## 視察先の位置関係

図表 チェルノブイリ原発事故による汚染(1989年12月時点)



両図を同縮尺  
で記載



図表 東電福島第一  
原発事故による汚染  
(2011年11月時点)

【出典】文部科学省発表資料(2011年11月)より作成